

Strix の創刊にあたって

財団法人 日本野鳥の会

会長 山下 静一

日本野鳥の会は、野鳥とのふれあいを大切にしつつ、野鳥とその生息環境の保護を推進することをひとつの大きな目的にしております。民間自然保護団体のひとつとして12,000余名の会員の支持のもとに、この目的達成の使命感に燃え、保護活動を続けて50年の歴史を刻もうとしています。地球上に限られている自然環境に及ぼす人間諸活動の圧力は、今日保護活動を「保護闘争」とも呼ぶべき状況にまで追い込み、活動の内容も真の勇気を必要とするものとなってきています。世界的規模で急速に進展する社会経済情勢にあって、自然保護の将来を楽観することは決してゆるされません。

バード・ウォッチングを人間の精神的、情緒的な糧として楽しむ一方、本会が政府や社会に対して説得力のある活動を進めそれを実効的に永続的に展開するために、保護に直接たずさわる者自身が理論づくりをする必要が今程要求される時はありません。社会に自然保護を主張し、また社会から発言を求められる時、そこに責任を持たねばならないことは当然であります。これらの要求に対応するには、ひとつには科学的な調査研究が基本となることは申すまでもありません。

本会研究部では、研究委員会のもとに調査研究の体制づくりを着実に進めています。調査員養成の研修会は先般韓国、台湾からも参加者を得て開催され、調査体制も各国との共同調査をめざして国際化へと新たな局面を迎えています。

こうした体制づくりのひとつの課題となっていたのが、フィールド・ワークの結晶であり理論づくりの貴重な資料となる調査研究の成果発表と、集められた豊富な鳥の情報をできるだけ会員に提供する場をつくることでした。今回、*Strix* 創刊によってこれができることは、本会の調査研究活動が一步大きく前進する基礎を築いたといつてよいでしょう。

表紙を藪内正幸氏の麗筆によるフクロウで飾ることは、大きな喜びであります。知恵の神アテナの使いとして知られるフクロウは、「森の賢人」のイメージをもあわせ持っており、本会の調査研究活動の発表誌にふさわしいシンボルと考えます。

Strix の内容を充実させていくには、会員の、支部の、そしてブロックのお力添えが是非とも必要です。また、鳥界の先輩諸氏の御指導を頂けますなら誠に幸いです。長い目で見て、会員の力を結束して鳥学の発展に寄与することが、*Strix* に課される大切な役割りであることも明記致さねばなりません。これから調査研究を始めようとする方、すでに何らかの興味や関心があって野鳥の記録をフィールド・ノートに記入している方、調査研究を実践されている方々の*Strix* への御支援をよろしくお願い致します次第です。